

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0272400524
法人名	有限会社 山宝産業
事業所名	グループホームすこやか
所在地	青森県五所川原市金木町芦野84-441 (電 話)0173-53-3186
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年12月14日

【情報提供票より】(平成21年10月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	洗濯代 2,000 円ほか
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	12 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低 69 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立金木病院 今歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「安らぎと喜びのある毎日。そして住み慣れた町でその人らしく最後まで」という理念を掲げており、地域密着型の役割を果たし、地域との共存を深く意識して日々のケアに取り組んでいる。

職員は、「んだんだ介護(うなずく介護)」を心がけ、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。また、料理や茶碗洗い、茶碗ふき、菜園、漬物など、個々の力を活かせる場を設けており、職員も一緒に行うことで、助け合い、楽しみ合いながら生活している。

献立には、季節の旬の物を取り入れたり、利用者がその日に食べたいものを取り入れるなど、食事が楽しめるよう工夫している。

これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族等が希望する医療機関の受診を支援している。また、協力病院との連携を図りながら、利用者の相談に応じたり、体調管理等に努めている。

日中玄関に鍵をかけておらず、外出傾向がある利用者には職員が付き添う等の支援を行っている。

共有空間には季節感のある装飾品が飾られており、家庭的で落ち着いた空間となっている。

【特に改善が求められる点】

虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れについての取り決めを作成し、全職員に周知することに期待したい。

職員の個々の経験や能力に応じて、計画的且つ段階的に研修を受講できるように、これまでの研修実施機関に問い合わせるなどして、年間研修計画を作成することに期待したい。

やむを得ず身体拘束を行う場合の理由や方法、期間、経過観察等の記録を残す体制を整えることに期待したい。

内的、外的要因により、やむを得ず施設する場合を想定し、家族に説明を行い、同意を得る体制を整えることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員会議やカンファレンス時等を利用し、外部評価の結果を全職員に周知し、改善に向けた話し合いを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員は評価の意義やねらいを理解しており、自己評価を実施する際は、全職員で話し合って作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、町内会、家族、行政、民生委員で構成され、毎回全メンバーが参加している。会議では日々の業務の取り組みや、自己評価・外部評価結果について報告し、活発な情報や意見交換を行い、日々の業務に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 玄関に苦情箱を設置するほか、家族の面会時等は、センター長と十分に話をする機会を設けており、要望等を出しやすい環境を整えている。また、内・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示しているほか、面会時等に継続的に周知している。意見等を出された際は、ホームのサービスに反映させる体制が整っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時等に気軽に挨拶や声掛けを行うことで、地域住民から野菜や米等の差し入れを頂くなど、値域の方が頻繁にホームを訪れる関係を築いている。また、町内会の寄り合いや行事に積極的に参加し、交流を図っている。さらに、ホーム内の研修で、地域住民の暮らしに役立つことを積極的に開催して、参加を募っており、認知症の普及活動にも取り組んでいる。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーについて説明を行っている。

【各領域の取組状況】

領 域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	「安らぎと喜びのある毎日。そして住み慣れた町でその人らしく最後まで」を理念に掲げ、全職員に周知しており、職員は理念の実現に努めている。 職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について概ね理解しており、現在5名の方が制度を利用しているほか、個々の状態に合わせて情報提供等の支援を行っている。 全国、県、地区のグループホーム協会に加入しているほか、地区のケア会議に参加し、他事業所の職員との交流や情報交換を行うことで、サービスの質の向上や職員の育成に役立っている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	ホームの利用希望者には、事前に併設型のデイサービスの利用を働きかけ、ホームの環境や利用者、職員と馴染めるよう支援している。また、本人や家族等、関係機関と十分に話し合い、安心して納得してサービスを開始できるよう調整している。 職員は、「んだんだ介護(うなずく介護)」を心がけ、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。また、料理や茶碗洗い、茶碗ふき、菜園、漬物など、個々の力を活かせる場を設けており、職員も一緒に行うことで、助け合い、楽しみ合いながら生活している。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	利用者がその人らしく暮らせるように、生活歴を把握し、利用者の意見を十分に聞いている。また、家族や関係者等から情報収集した上で、ケア会議等で職員の気づきを出し合い、利用者本位で個別具体化な介護計画を作成している。 これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族等が希望する医療機関の受診を支援している。また、協力病院との連携を図りながら、利用者の相談に応じたり、体調管理等に努めている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者一人ひとりの言動を急がすことなく、利用者優先のケアを行っている。また、利用者のその日の希望や身体的状況に配慮し、柔軟な姿勢で支援している。 献立には、旬の物を取り入れたり、利用者がその日に食べたいものを取り入れるなど、食事が楽しめるよう工夫している。 日中玄関に鍵をかけておらず、外出傾向がある利用者には職員が付き添う等の支援を行っている。 共有空間には季節感のある装飾品が飾られており、家庭的で落ち着いた空間となっている。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安らぎと喜びのある毎日。そして住み慣れた町で最後まで」という独自の理念を作成しており、管理者や職員は地域との共存を深く意識し、地域密着型サービスの役割を理解している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内の目のつくところに提示し、申し送り時や会議の際に確認と共有を図っており、職員は日々のケアサービスに理念を反映させるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩時等に気軽に挨拶や声掛けを行うことで、地域住民から野菜や米等の差し入れを頂くなど、地域の方が頻繁にホームを訪れる関係を築いている。また、町内会の寄り合いや行事に積極的に参加し、交流を図っている。さらに、ホーム内の研修で、地域住民の暮らしに役立つことを積極的に行い、参加を募っており、認知症の普及活動にも取り組んでいる。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーについて説明を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義やねらいを理解しており、自己評価を実施する際は、全職員で話し合って作成している。また、外部評価の結果を全職員に周知し、改善に向けた話し合いを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、町内会、家族、行政、民生委員で構成され、毎回全メンバーが参加している。会議では日々の業務の取り組みや、自己評価・外部評価結果について報告し、活発な情報や意見の交換を行い、日々の業務に活かしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議に参加し、様々な課題解決や情報交換を行っている。また、運営推進会議を通じて、自己評価や外部評価結果を報告している。ホームに対し、広報誌を発行する際は、毎回送付している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉士を中心に研修に参加し、伝達研修を行っており、職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について概ね理解している。現在5名の方が制度を活用しているほか、個々の状態に合わせて情報提供等の支援を行っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は外部研修に参加し、伝達研修を行うことで、高齢者虐待について理解している。また、センター長の指導のもと虐待のないケアを実践しているが、虐待を発見した場合のホーム独自の報告の流れについて取り決めに作成するまでには至っていない。	○	虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れについての取り決めに作成し、全職員に周知することに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットや契約書、重要事項説明書を用いて、利用者や家族等に十分説明を行い、不安や疑問点等の意見を引き出すなど、話しやすい環境を整えている。契約改訂時や退居時は、不安の無いよう十分に話し合い、同意を得ているほか、退居の際は、情報提供等の支援をしている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌の通信欄を利用し、個別にホーム内の暮らしぶりを報告している。利用者の健康状態については受診の際に必ず電話にて報告しており、情報の共有を図っている。金銭管理状況は、お小遣い帳のコピーを定期的に送付し、報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置するほか、家族の面会時等は、センター長と十分に話をする機会を設けており、要望等を出しやすい環境を整えている。また、内・外部苦情受付窓口を重要事項説明書に明示しているほか、面会時等に継続的に周知している。意見等を出された際は、ホームのサービスに反映させる体制が整っている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の交代による利用者への影響を十分理解しており、ユニット間交流を行うことで、全職員が利用者に関わりを持ち、馴染みの関係を築いている。異動を行う際は、利用者への影響を最小限に抑えるよう配慮しているほか、業務の引継ぎには十分な期間を設けて詳細に行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長や管理者は職員のスーパーバイザーとして業務に関する助言や指導等を行っているほか、職員の資格取得や研修参加に協力的で、勤務体制等に配慮して派遣している。職員は研修受講後に報告書を作成し、伝達研修を行うことで、全職員に研修内容を周知しているが、外部研修の年間計画を作成するまでには至っていない。	○	職員の個々の経験や能力に応じて、計画的且つ段階的に研修を受講できるように、これまでの研修実施機関に問い合わせるなどして、年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県、地区のグループホーム協会に加入し、研修等に積極的に参加することで、同業者との交流を図っている。また、地区のケア会議に参加し、他事業所の職員との交流や情報交換を行い、サービスの質の向上や職員の育成に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、事前に併設型のデイサービスの利用を働きかけ、ホームの環境や利用者、職員と馴染めるよう支援している。また、本人や家族等、関係機関と十分に話し合い、安心し納得してサービスを開始できるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「んだんだ介護(うなずく介護)」を心がけ、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。また、料理や茶碗洗い、茶碗ふき、菜園、漬物など、個々の力を活かせる場を設けており、職員も一緒に行うことで、助け合い、楽しみ合いながら生活している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のコミュニケーションから思いや希望の把握に努めている。また、家族、関係者からの情報や、ケアカンファレンス時の職員の意見等を基に、利用者一人ひとりの意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らせるように、生活歴を把握し、利用者の意見を十分に聞いている。また、家族や関係者等から情報収集した上で、ケア会議等で職員の気づきを出し合い、個別具体化な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っているほか、利用者の状態変化時や意向変更時には再アセスメントを行い、随時見直している。見直しの際は、利用者、家族、関係者から意見を収集し、ケアカンファレンスを行った上で、現状に応じた新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応え、可能な限り柔軟な対応を行っている。また、利用者や家族、地域のニーズに応えられるよう努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族等が希望する医療機関の受診を支援している。また、協力医療機関との連携を図りながら、利用者の相談に応じたり、体調管理等に努めている。受診結果はその都度家族等に電話で報告しており、情報の共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは重度化や終末期に対応しており、指針を作成し、利用者や家族等に説明を行い、同意を得ている。入所時や状況変化時には随時話し合いが行われ、利用者、家族、医療機関との意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は傾聴を心がけ、利用者を「さん」付けで呼ぶなど、利用者を尊重した対応に努めている。また、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮しているほか、個々の記録等は外部の人の目に触れないように事務室の戸棚に管理している。利用者への日々の対応について、会議等で話し合い、ホーム内で統一している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの言動を急かすことなく、利用者優先のケアを行っている。また、利用者のその日の希望や身体的状況に配慮し、柔軟な姿勢で支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の希望や、旬の食材を取り入れており、食事が楽しくなるよう工夫している。利用者は、個々の状態に合わせ料理の下準備や、後片付けなど職員と一緒にに行っている。職員は食べこぼし等のサポートをさり気なく行い、楽しい時間となるよう配慮している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣を把握しており、入浴日や時間帯は概ね決まっているが、利用者の希望に応じた入浴に対応している。また、職員は利用者の入浴に対する羞恥心や負担感に配慮し、同性介助を行っている。利用者が入浴を拒否する場合は、声がけをする職員を変えたり、時間において再度声がけするなど、工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の関わりや言動、家族、関係者からの情報を基に、利用者一人ひとりの希望や力量を把握し、食器洗い、食器ふき、菜園作り、漬物作り、料理の味付け等の役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩に出掛けており、日常的に戸外に出る機会を設けている。また、毎月、利用者の意向を取り入れ、買い物等の外出を計画し、外出の際は個々の状態に十分配慮した対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や職員は身体拘束に関する研修に参加し、伝達研修を行うことで、全職員が理解を深められるよう取り組んでおり、身体拘束を行わないケアを提供している。また、マニュアルを作成し、やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族に説明を行い同意を得る体制が整っているが、身体拘束を行う場合の理由や方法、期間、経過観察等を記録に残す体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合の理由や方法、期間、経過観察等の記録を残す体制を整えることに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。また、居室等利用者が日常的に出入りする場所も施錠していない。職員は常に利用者を見守り、外出時は付き添っている。無断外出に備え、近隣から協力が得られる体制を整えているが、やむを得ず施錠する場合に備え、家族等に説明を行い、同意を得るまでには至っていない。	○	内的、外的要因により、やむを得ず施錠する場合を想定し、家族に説明を行い、同意を得る体制を整えることに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害時の役割やマニュアルを整備し、年2回、消防署の立会いで消防訓練を行うほか、毎月、地域住民の参加のもと、昼夜を想定した避難訓練を実施している。災害発生時に備え、食料や日用品、緊急時の連絡先など、十分に備蓄品を用意し、持ち出しができる状態となっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスがとれた献立となっており、職員は利用者の1日の総摂取量や水分量の記録を毎日行い把握している。また、利用者の栄養摂取状況等について、協力医療機関の栄養士や医師、看護師から指導や助言を得られる体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルが作成されており、必要に応じて見直しを行っている。また、感染症に関する最新の情報収集に努め、随時勉強会を行うことで、全職員に周知している。感染症に関する最新情報を、玄関等に掲示したり、ホーム便り等で周知することで、予防に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節に応じた装飾を行い、家庭的な雰囲気となるよう工夫している。職員の立てる物音や、テレビの音量、室内の明るさは適切で、心地良く過ごせる空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビや冷蔵庫、位牌、写真立て、使い慣れた寝具等が持ち込まれており、一人ひとりの意向を取り入れた居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。